

第 19 回党全国大会と習近平体制のゆくえ

集団指導体制の否定と個人独裁の確立

2017 年 11 月 25 日立正大学経済学部 加々美 光行(愛知大学名誉教授)

1. 毛沢東独裁との違い：カリスマ独裁の欠如。

- ・ 20 世紀カリスマの時代からカリスマ不在の時代へ。
- ・ 毛独裁：遵議会義 1935 年 1 月 15 日中共中央政治局拡大会議。毛沢東と王明の路線対立＝土着路線とコミンテルン路線の対立闘争。大長征途次、毛の中共内部の指導的地位の確定。
- ・ 王稼祥（中共中央政治局常務委）：「毛沢東思想」の提起。1943 年 7 月 8 日「中国共産党 与中国民族解放的道路－紀念中国共産党 22 周年与抗戦 6 周年」(延安『解放日報』頭版)。全党で史上初めて「毛沢東思想」という言葉を用いた。
- ・ 劉少奇（中共中央書記処書記）：1945 年 5 月 14 日—15 日党第 7 回全国大会報告。「無沢東思想じゃ我が党の唯一の正しい指導思想」と称賛。
- ・ 毛沢東：「持久戦論」（延安抗日戦争研究会的講演、1938 年 5 月）、「抗日遊撃戦的戦略問題」（1938 年 5 月）、「敵を深く誘い込み、包囲殲滅する」。
- ・ 毛沢東は「井崗山の戦い」から抗日戦争（1931 年—1945 年、15 年戦争）から革命戦争（国共内戦）に至る戦争において絶大な功績があることは否定できない。

- ・同様に同時代の世界の政治指導者にはキューバのフィデル・カストロ、ベトナムのホー・チミン、インドネシアのスカルノ、インドのガンジーとネルー、ビルマのウー・ヌー、エチオピアのハイレ・セラシエ、エジプトのナセル、など多くのカリスマ（神格的）指導者がキラ星のように存在した。

2. 鄧小平独裁との違い：

- ・1926年11月、22歳の時、フランス、ロシア留学から帰国。中国革命に参加。
- ・1927年から1929年夏まで上海で党地下活動。
- ・1929年12月、広西省で中国紅軍第7軍、第8軍の創設に貢献。
- ・1933年ソ連留学派の王明・コミンテルン派から土着派として批判され、一度目の失脚をする。
- ・1935年1月毛沢東・周恩来の推薦で遵義会議に出席。中共中央秘書長に当選。
- ・1966年11月7日名指しの批判を受け、「実権派」として二度目の失脚。江西南昌に軟禁。
- ・1972年8月毛の鄧小平宛手紙—1973年2月20日周恩来の支持の下、復権。3月に国務院副総理に就任。
- ・1974年4月国連総会で毛沢東の「三つの世界」論を発表。
- ・1976年1月8日周恩来逝去。1月15日天安門広場で「追悼会」。汪東興の「8341

部隊」鄧小平を拘禁。三度目の失脚。

- ・ 1976年4月5日「四人組批判、鄧小平復権」を求める百万人「天安門四五」運動が起きる。四人組によって鄧小平が「総黒幕」とされる。
- ・ 1976年9月9日毛沢東逝去。
- ・ 1977年7月16日—21日、中共第10期3中全会、鄧小平の党副主席への復権を認める。三度目の復権。
- ・ 1978年5月11日『光明日報』に胡福明の「実践は真理を測る唯一の基準である」（胡耀邦監修、「実践是檢驗真理的唯一標準」）が発表。
- ・ 1978年12月、中共第11期3中全会、華国鋒批判、改革政策の開始。「毛沢東の階級闘争論」の否定。「文革三分の誤り、七分の功績」。
- ・ 1981年6月第11期6中全会、「建国以来の若干の歴史問題に関する決議」（「歴史決議」）。文革の全面否定。「市場改革、対外開放」政策の正式提起。①農業の市場化、②経済特別区として珠海、深圳の対外開放、③人民公社の解体。
- ・ 1984年第12期3中全会「経済体制改革に関する決議」、14の沿海都市の対外開放の決定。「先富論」の提起。
- ・ 1989年6月「六四天安門事件」。政治と経済の捻じれ。政治改革なき経済改革。
- ・ 1992年2月鄧小平「南巡講話」：小気候と大気候。諸外国の経済制裁が続く中の大胆な対外開放を提起。

3. カリスマの条件：

- ・革命実践経験、革命実践に対応した革命理論（継続＝永続革命論 or 永続改革論）。
- ・カリスマ崇拜を周囲が起こす。cf., 第 19 回党大会での習近平の 3 時間の報告。
- ・複数回の失脚と複数回の復権。
- ・建設成功理論の提起＝改革開放理論。
- ・「先富論」か「格差是正論」か。

4. 習近平体制の問題点。

- ・反体制的言論の統制：特にネット言論の統制。
- ・中国の国家規模の急激な拡大。2009 年グロスの GDP が日本を追い越して世界第 2 の経済大国になる。2016 年現在で GDP が日本の 2・5 倍。
- ・2013 年 6 月パーム・スプリングスで行われたオバマ・習近平の米中首脳会談。
「大国外交」の提起。オバマの無視。
- ・トランプの対中外交の不透明性。